

きょう顕彰式典 イノベーションに果敢に挑戦

東京商工会議所は、10日、東京都千代田区のホテルニューオータニ東京で、第11回「勇気ある経営大賞」の顕彰式典を開き、革新的な技術を開発するなど創造性にあふれる中小企業やベンチャー企業を顕彰する。今回は143社が応募し、大賞に1社が選ばれたほか、優秀賞5社、特別賞2社が選ばれた。顕彰の意義や取り組みについて、岡村正氏に聞いた。

宝の山、から優れた企業を数多く発掘

「勇気ある経営大賞」は今年で11回目を迎えました。会頭は、本顕彰制度についてどのような役割を期待されているのでしょうか

東京商工会議所の会頭就任後、6年がたちました。就任以来、勇気を持ってイノベーションを絶え間なく引き起こしていかないと、今後の企業経営の活路は見いだせない、ということをさまざまな場で繰り返し申し上げてまいりました。「勇気ある経営大賞」は、まさに私の申し上げてきたイノベーションに勇気を持って取り組んでこられた中小企業を顕彰する制度であり、今年を受賞企業の中にもイノベーションのお手本が数多く見られ、嬉しい限りです。

我が国の経済は、政府の経済政策などにより、全体としては回復基調が続いております。また2020年東京オリンピック招致の成功により、今後の経済に好影響を与えるものと期待されております。その一方で、燃料・原材料価格の上昇等により、採算の向上が実感できない分野が存在していることも事実です。このような厳しい中で、今年も143社の企業から応募をいただきました。応募社数という量もさることながら、質的にもレベルの高い企業が多く、昨年と同様、大変難しい長時間にわたる選考になったと選考関係者から聞いております。

—応募企業の業種内訳と受賞企業8社の概要は

製造業57社、サービス業37社、建設業17社、その他32社でした。製造業の応募が多いのがこの賞の特徴です。

受賞企業の内訳は製造業が6社、建設業が2社となりました。主な傾向として大まかに3つに分かれました。技術力や新しいコンセプトで国内で成長している企業。海外進出で成果を発揮している企業。そして異分野へ新規参入を果たした企業です。

—大賞を受賞された1社についてお聞かせ下さい

内野製作所は精密歯車を製作する会社として自動車開発用の試作歯車からF-1や航空機の歯車まで作る企業です。同社は歯車試作のトップメーカーになるために、年間売り上げの半分に相当する最新工作機械を導入し、その工作機械の技術取得のためドイツやスイスなど工作機械メーカーに研修に行かせたりなどハー

ドとソフトの両面で思い切った経営判断をしています。リーマンショックや震災後の厳しい経営環境下でも、顧客の要請に応えるためリスクを負ったチャレンジを続けてきました。同社はF-1などレース用の歯車を供給することで品質と加工のスピードそれに設計変更への対応力が極限まで鍛えられ磨かれました。同社は技術力に裏打ちされた差別化・高精度化を目指した結果、他社の追従を許さない付加価値の高い歯車の製造に成功し、歯車試作のビジネスモデルを確立しました。

—優秀賞には、5社が選ばれましたカネパッケージは、フィリピン工場の成功を皮切りに基本的に現地の人、物、金を使い短期間に中国、ベトナム、インドネシア、タイなどに14もの海外子会社等の拠点を立上げASEANを中心にグローバル化を図りました。

西尾硝子鏡工業所は、ショーケースなどのガラス加工で高い技術を要するガラスの小口を45度に傾斜し、気泡を入れずにガラスどうしを接着する技術に成功。海外スーパーブランドから受注を受けるなど他社では手掛けることが難しい高付加価値を生み出しました。

日進精機は、プレス加工工業で積極的な海外進出を図りました。現地社員が「自らの会社」と思えるまで教育を徹底して日本と同じ高い技術で現地生産を可能にしています。海外に工場があるおかげで、その関連の会社から国内でも引き合いが来るという好循環を生んでいます。また金属パイプを三次元に自由自在に曲げられる自社特許製品の装置「CN Cパイプバンダー」をヨーロッパでブランド化、ドイツ企業へのライセンス生産を成功させました。

ミノダは、縮小の一途をたどる刺繍業界において自社デザインの商品開発に挑戦し数々の困難を乗り越え下請からの脱却と多品種少量生産で生き残る道を切り拓きました。その後は有名キャラクターのライセンス取得にも成功し、業界の中で先進的な事例を築きました。

ユニパックは、空調設備の保守をする企業ですが、使い捨てが当たり前の空調フィルターに着目。洗浄・再利用する技術を開発して、省エネと廃棄物削減に大きく貢献しました。また空調を使った節電メニューも提案し時代のニーズにあった節電対策として商業施設をはじめさま

東京商工会議所会頭、日本商工会議所会頭

東芝相談役 岡村正氏



おかむら・ただし 東京大学法学部卒。62年東芝入社。社長、会長を経て現在相談役。07年、東京・日本商工会議所会頭。75歳。東京都出身。

ざまな場所へ普及させています。

いずれの会社も、時代のニーズや変化を的確にとらえ、自社の得意技を進化させ勇気ある事業展開をしてきました。

—特別賞には、2社の企業が選ばれたようですが

特別賞は、非常にユニークな取り組みと、キラリと光る個性を持った企業に贈賞しています。

システム・インストルメンツは分析機器メーカーですが、長年積み上げたコア技術を活かし高齢者向け健康市場へ参入しました。科学的根拠いわゆるエビデンスを取り入れた介護予防は殆どないそうです。同社はエビデンスに則った全自動筋力トレーニングシステムを開発しました。

清和光学製作所は、光学機器のメーカーですが顕微鏡製造で培った光学技術をベースに新たに環境事業に参入しました。LED照明や太陽光発電事業などで近年高まる環境ニーズに応えています。同社は既存事業でも常に技術の向上を意識し、たゆまぬ努力を続けており、今後も大きな期待が持てる企業です。

—受賞企業を分類するとどのようになりますか

先ほど受賞企業の特徴としては大まかに3つに分かれますと申し上げましたが、内野製作所、西尾硝子鏡工業所、ミノダ、ユニパックの4社は自社の技術や商品を磨き抜き他との明確な差別化を図り国内市場で存在感を示しています。海外進出ではカネパッケージと日進精機です。きっかけは岡村社も取引先の海外進出に伴うものですが岡村社は単に海外で生産することを超えて、それぞれの地域に根差した展開を進めています。

異分野への進出はシステム・インストルメンツと清和光学製作所です。岡村社は

自社の積み上げられた既存技術を活かして新たな分野へ新規参入を果たしました。

—ユニークな取り組みはありますか

ボランティア活動を勇気の対象の1つとして応募した企業がありました。カネパッケージは海外でのボランティアを通じて社会貢献とともに社員の一体感や会社のイメージ向上を図っています。グループ全体の売り上げの0.1%を使い、各国の従業員が毎年フィリピンに集まってマングローブの植林を行い、CO₂オフセットを実現しています。このような企業が沢山出てくると日本企業のイメージがアップするでしょう。

—受賞企業の特徴を総括すると、今後、中小企業がイノベーションに取り組む道筋が見えてきそうですね

受賞したどの企業も日々の小さなイノベーションの繰り返しがあって今日があると思います。それが可能になるのは明確な目標や経営理念を経営者の強いリーダーシップによって、実践していることです。

—今後もさらに回を重ねていくと思いますが、どのような展開や発展を期待されているのでしょうか

今回も23区外からも多数の企業のご応募がありました。世間での認知度が上がってきていることを実感しております。一方で、他の表彰制度の受賞企業や、展示会などの出展企業を見てみると、素晴らしい企業はたくさんあり、23区内でも発掘しきれておりません。推薦機関の協力を得るなど、発掘しきれていない宝の山から優れた企業を見い出して、イノベーションのお手本として世間に公表できるよう努力して参ります。